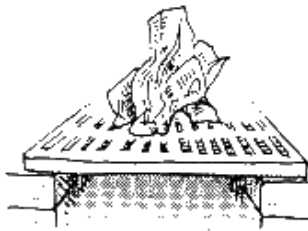


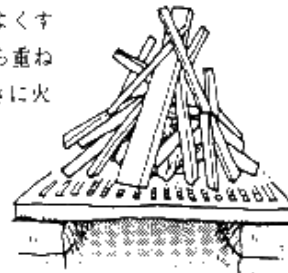
名称	火の燃やし方	雨天 ○
活動の概要	野外炊事の一番重要な燃料の準備、燃やし方。	季節 通年
		対象 小学生～
		人数
持ち物・費用	軍手、マッチ、新聞紙、まき各種(有料)	時間
		職員の対応 事前指導・指導

…… まき組み ……

- 1 新聞紙を軽くねじり、3～4本置く。



- 2 新聞紙の上に折った細いまきを組む。空気の通りをよくするようにいろいろな方向から重ねる。そして、徐々に太いまきに火がついていくように組む。



…… 火のつけ方、おこし方 ……

- 1 風で消えないよう注意しながら、マッチのじくがすり紙に45度くらいでこすれるようにする。



うちわ

うちわであおぐと灰が舞いあがり、サベに入ったりする。火の粉もあがり、迷惑で危険なのでやめよう。

- 2 マッチの火を新聞紙スティックに移すと、安全にあわてずに点火ができる。



新聞紙スティック

- 3 火が大きくなり太いまきに移るまで、絶対にあおいだり、まきをいじくらない。火は自らの力で育つように燃えあがるのだ。



かまどの後かたづけ

かまどには、水をかけてはいけない。水をかけると急激に冷えてかまどの石がわれたり、石が弱くなってしまう。そのうえ、灰は舞いあがってしまうし、つぎに使う人はかまどが湿っていて火がつきにくい。火が完全に消えるのを待ってから、ほうきとちりとりで静かにはき集めて、灰すて場ですてよう。

※ 灰すて場の消火を忘れずに。

